

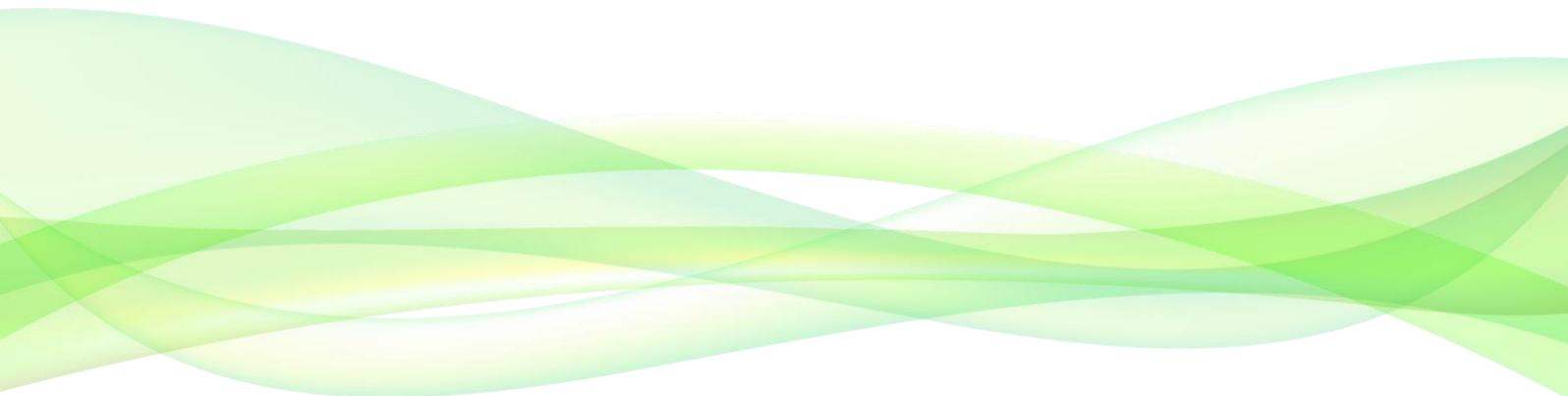


# 所沢市

## 平和推進事業のまとめ

令和7年度

経営企画部企画総務課





## 所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

### 【目次】

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 広島平和記念式典参加事業                   | 1  |
| 平和大使 感想文                       | 4  |
| 所沢市平和祈念式                       | 7  |
| 市長メッセージ                        | 8  |
| 広島市役所旧庁舎被爆敷石                   | 10 |
| 所沢市平和を語る会（語り部派遣事業）             | 11 |
| 語り部の紹介                         | 13 |
| 所沢市平和祈念資料展                     | 15 |
| 日本原水爆被害者団体協議会 代表委員 田中 熙巳 氏 講演会 | 17 |
| 【資料】                           |    |
| 所沢市平和推進事業のあゆみ                  | 20 |





# 広島平和記念式典参加事業

所沢市では、例年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式 並びに平和祈念式(広島平和記念式典)」に、平和に対する認識を深めていただくために、市内在住中高生等の市民代表者(平和大使)とともに参加しています。

戦後80年余りが経過する中で、日本が唯一の戦争被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方々が、被爆地である広島に赴き、被爆施設や平和記念資料館への訪問を通じて自らの目で歴史に触れるとともに、式典に参加することで、原爆や戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識する機会となっています。

## 【期 間】

令和7年8月5日(火)～6日(水)

## 【参加者】

平和大使(市民代表): 大学生1名、高校生1名、中学生3名

市議会代表2名

市長、市職員3名(市長随行者1名、事務局2名)

計 11名



8月5日(火)

所沢市平和大使5名と市議会議員2名を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島市へと向かった。

広島市到着後、原爆ドームを見学。その後は平和記念公園を訪れ、市及び市議会の代表として、原爆の子の像に千羽鶴を奉納した。その後、平和記念資料館を見学し、原爆慰霊碑に生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。被爆爆心地(現:島内科)の見学も実施し、初日の行程を終えた。

午前 8:30 所沢駅集合・出発  
午後 2:27 広島駅到着(新幹線にて)  
午後 4:00 原爆ドーム、平和記念公園へ  
午後 6:30 夕飯・初日行程終了



8月6日(水)

2日目から市長が合流。

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分に、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、石破首相、国際連合事務総長などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を拝聴し、午前8時50分に閉式となった。式典終了後、広島駅に向かい帰路についた。

午前 7:00 平和記念公園着  
午前 8:00 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 開式  
午前 8:50 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式 閉式  
午後 0:18 広島駅発  
午後 5:20 所沢駅着(解散)



式典当日は真夏の日差しが強く、汗が止まらないほどの暑さの中、たくさんのセミの鳴き声が響いていました。あの出来事が起こった日も人々にとっては「ただの日常の一日」だったに違いないと感じました。参列者の多くはハンディファンを手にし、スマートフォンで時間を確認しながらミストのかかる大きな屋根の下で式典を待っていました。

その様子を見て、平和を願う厳粛な場でありながら、現代の日常が重なることに複雑な思いを抱きました。

原爆ドームを実際に目にするまでは、本当にここに原子爆弾が落ちたのかという実感がありませんでした。周囲の街並みは整備され、美しく復興しているのに対し、原爆ドームだけが当時の姿を残していたからです。

資料館では、被爆者が「思い出したくないはずの過去」を証言として伝えてくださっており、それら一つ一つが胸に刺さりました。

式典では、子ども代表の平和の誓いの中に「被爆者の方々から直接話を聞く機会は少なくなっています」という言葉があり、近い将来被爆者が誰もいない時代が訪れることを現実として感じました。さらに、原爆ドームが一時は取り壊されそうになった歴史を知り、当時の人々にとってその存在を見ることがどれほど辛かったのかを思いました。それでもなお残すことで、平和を訴える証人としての役割を果たしていることに強い意味を感じました。また、資料館では多くの外国人が翻訳機を使用しながら学んでいる姿があったり、式典に多くの参列者が集まっていたことから、広島が出来事が世界へと伝えられていることに希望を抱きました。

今回の体験を通して、戦争の悲惨さを改めて知ると同時に、平和の尊さを強く実感しました。被爆者の方々の記憶が直接語られる時代は終わりに近づいています。だからこそ、私たちが学び、語り継いでいく責任を持たなければならないと思いました。

原爆ドームは、過去の悲劇を伝えるだけでなく、未来への希望を託された存在だと感じます。私はこの学びを忘れず、平和の大切さを自分の世代から次の世代へと伝えていきたいです。

今回の1泊2日の広島訪問では、平和記念資料館に多くの外国人が訪れているのを見て、世界中の人々が過去の出来事に目を向け、学ぼうとしていることに深く感動しました。

国や文化が異なっても、「平和を願う心」は共通なのだと感じました。一方で、今もなお世界には核兵器が存在し、各地で戦争や紛争が続いているという現実を思うと、胸が痛みました。歴史から学んだはずの教訓が、まだ十分に活かされていないことに、もどかしさを感じずにはいられません。

平和記念式典で、小学生が「一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことが平和への第一歩だ」と語っていた言葉が、とても心に残りました。その言葉には、争いのない社会を築くための本質が込められているように思いました。難しいことではなく、小さな思いやりを持つことが、平和を生み出す大きな力になるのだと改めて気づかされました。

私自身も、その言葉を胸に、日々の生活の中で思いやりを意識しながら、平和への一步を踏み出していきたいと思います。

原爆ドームを見学した際、観光地とは異なる、重く静かな空気が流れているのを感じました。そこに立っただけで、原子爆弾がもたらした恐ろしさ、そしてその瞬間に奪われた命の重みが、ひしひしと伝わってきました。

平和記念資料館では、当時の人々の生活が一瞬にして壊されたことが、被爆者の遺品や写真、証言を通してリアルに伝わってきました。とくに、焼け焦げた衣服や、顔の皮膚がただれた写真を目にしたときは、言葉を失うほどの衝撃を受けました。

広島を訪れる前は、原爆についてある程度の知識は持っていたつもりでしたが、どこか遠い過去の出来事のように感じていました。しかし、実際にこの地を訪れ、現実として展示されている資料を目にする中で、「本当に日本で起きたことなのだ」と強く実感させられました。

この体験を通して、平和の大切さ、そして二度と同じ悲劇を繰り返してはならないという強い思いを新たにしました。

私には、平和大使として広島に向かった今回の事業に「参加してよかった」と思えた2つの思い出、そして平和への強い思いがあります。

一つ目は、一日目の食事会です。鉄板焼きのお店で大人組と学生組に分かれて食事をする事になり、私たちは大学生の流華さんを中心に、お互いの学校のことや家族のことなどをたくさん語り合いました。

私は話の途中でつかえることが多かったのですが、みんなは笑って流してくれました。学校の給食でおなじみの「おかわりじゃんけん」もして、ほぼ初対面だった私たちはささやかな友情を築くことができました。

二つ目は、平和祈念式典に参加したことです。ありがたいことにかかり前の方の、舞台上言うところのA席のような場所で見ることができました。

最も印象的だったのは広島県知事の演説で、核兵器廃絶への強い思いが感じられました。

そして平和の歌も、三番だけ、それも小さい声ですが歌うことができました。

私が戦争や平和に強い関心を抱くようになったのは、小学五年生の時に読んだ本がきっかけでした。その本では日本がかつて行ってきた無数の非道な行為について触れられていて、当時の私は恐怖と申し訳なさで泣いてしまったほどでした。

そこで父からこの事業のことを聞き、中学校に上がったらず必ず応募すると心に決めました。一年生の時には外れてしまいましたが、二年生の今年、このように平和大使として広島へ向かうことができました。

これらの経験をもとに私は、平和への想いを枯らすことなく、世界を温かく穏やかな未来へ導けるような大人になれるよう、少しずつ進んで行きます。最後に、このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝します。ありがとうございました。

### 「黙祷」

令和7年8月6日午前8時15分、広島平和記念公園にある平和の鐘が8回鳴り響きました。私は、その間に「原子爆弾の被害に遭われた方々のこと」、「戦争のこと」、「これからの平和について」考えながら、祈りを捧げました。

私は歴史に興味があり、積極的に授業を受けたり、気になることがあるとインターネットで調べたりしていました。その歴史の中で避けては通れないのが戦争です。特に人類で唯一の被爆者である日本人として「戦争と原子爆弾」について知りたいと思うようになり、所沢市平和大使に応募しました。

私は所沢市の代表として、平和大使に任命されてから平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)に参加するまでの間、少しでも多くのことを学んでから臨もうと思い、被爆者の方の体験談や小学生だった被爆者が書いた作文集を読み、当時の状況を少しでも理解できるよう勉強し準備をしてきました。

8月5日、広島に着き、平和記念資料館に行くと当時の広島と爆撃後の状況が壁一面にパノラマで広がり、どこを見ても建物が崩壊していたことや鉄骨は曲がり、原型が分からなくなっていることにとっても衝撃を受けました。また、原子爆弾の特徴でもある「熱線・爆風・放射線」の3つの脅威により、多くの方が犠牲になられた様子を見て、胸が張り裂けそうでした。

この平和記念資料館は、「被爆資料や遺品、証言などを通じて世界の人々に核兵器の恐怖や非人道性を伝え、ノーモア・ヒロシマを訴える。」その一つの手段として作られており、私はこのことを、世界中の多くの人に知ってもらうことが大切だと感じました。平和記念資料館見学後は、所沢市の平和大使として、これからの平和を願いながら、所沢市民の方々が作ってくださった折鶴を平和記念公園に奉納しました。

8月6日、小野塚市長、佐野議員、山口議員、小古井さん、木村さん、平和大使の皆さんと一緒に平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)の会場に向かいました。所沢市の代表として、責任感を持ち、身を引き締めて臨みました。式典の中の平和宣言で、広島市の松井市長は、「自分より他者の立場を優先すること」、「市民レベルの取り組みの輪を広げること」が大切であると述べられました。お互いが他者の立場を尊重することにより、争いは無くなり、誰もが住みやすい世の中になると思います。また、実際に戦争を経験していない私たちでも、スポーツなどの交流を通して、人と人とのつながりを作っていくことはできると思いました。

今回任命された平和大使の経験を生かし、私は日々の生活の中で、私ができることを見つけ、平和を願う「ヒロシマの心」をつなぎ、広げていきたいと思えます。

最後に引率してくださった皆様、2日間お世話になりました。この経験は私にとって、もう一度平和を見つめ直すきっかけとなりました。このような貴重な体験をいただき、ありがとうございました。

1945年8月6日、広島の上に立ち上ったきのこ雲は人々の日常を一瞬で奪い去りました。命も、ふるさとも、希望も、すべてが焼き尽くされたあの日。それから80年、青く澄み渡る広島の上に鳩が舞い上がり、その光景から平和を実感しました。過去を語り継ぎ、未来を守ることが私たちの使命です。

平和記念資料館では原爆によって奪われた命の重みを、遺品や写真を通して深く感じました。目をそむけたくないような現実がそこにありました。日常、家族、健康、未来、人生、故郷、友達、大切な人、自然。かけがえのない宝物が一瞬にして奪われてしまったのです。原子爆弾は多くのものを人々から奪います。この事実を知ること、想像することから平和への第一歩が始まります。この悲しい過去にも目を背けずに自分の言葉で語り継ぎます。

式典の会場では、地元広島、日本各地、世界各国から集った人々が静かに目を閉じ、祈りを捧げていました。私も一員として参加し、平和を願う思いの強さに心が震えました。

私は中学校三年間ドイツで暮らしていました。ドイツでは戦争を風化させないために各地に施設がありました。人々は熱心に戦争の展示を見学し、祈りをささげる人々を目の当たりにしました。訪れたポツダムの施設では広島に関する展示や映像にも触れる機会がありました。きのこ雲が空を覆い多くの人が川へ逃げ込む映像、一面が灰に覆われた広島、平和都市として復興した広島など戦争の悲惨さと平和への尊さを遠く離れた異国の地でも感じ取りました。ポツダムには平和を願うヒロシマ・ナガサキ広場が設置されています。平和を願う思いは世界共通です。また、式典で挨拶をされた代表の方々からは、想像力、多様性、思いやり、対話、ネバーギブアップなど平和な国際社会を願い築く基盤となる強い思いを感じ取りました。子ども代表の平和宣言では「One Voice」という言葉が心に残りました。一人ひとりが学んだ事実を思いとともに語り継ぎ、未来へつなぐというメッセージに強く共感しました。平和を願いひろしま平和の歌を皆で歌った体験。最後に放たれた平和の象徴である鳩が空へ舞い上がった光景を一生忘れません。

私は幼少期からフィーニュー少年少女合唱団に参加しています。歌を通して仲間と心を分かち合い、笑顔になれることの経験を重ねてきました。異国の合唱団との国際交流では、言葉の壁を越えて音楽の力で気持ちを届ける喜びも体感していました。今年の広島平和記念式典に向けて合唱団では歌声に平和への願いを込め練習を重ねました。歌は人の心をつなぎ世界に希望を与える力があることを信じ、これからも合唱に取り組んでいきます。

小さな一歩が未来を変える力になります。一人の声が誰かに届き、その声がまた別の誰かに届く。平和とは身近な人に温かい言葉をかけ大切にすることから始まります。平和記念事業で参加させていただいた経験を胸に風化させることなく、自分事として平和を考え、行動していきます。広島で受け取った平和へのバトンを大切に、対話を通して広げていきます。



# 所沢市平和祈念式



## 事業概要

令和7年度は、広島市・長崎市への原爆投下、そして終戦から80年を迎える節目の年となりました。

この節目の年を機に、多くの市民の皆さまに平和を祈念するきっかけとしていただくため、市の主催により初めて平和祈念式を開催いたしました。

当日は約150名の方が参列し、午前8時15分に広島平和記念式典で鳴らされた「平和の鐘」に合わせ、黙とうを行いました。

### 【日時】

令和7年8月6日 午前8時から午前8時30分

### 【場所】

所沢市役所正面入口前広場 広島市旧庁舎被爆敷石前

### 【内容】

市長メッセージ紹介、議長ご挨拶

敷石の紹介、献水

黙とう(午前8時15分)

献花



## 市長メッセージ

本日は、「所沢市平和祈念式」にご列席を賜り、心より御礼申し上げます。

私は本日、広島市で開催されております広島平和記念式典に参列しているため、この大切な式に直接立ち会えないことを、ご容赦いただけますと幸いです。

1945年(昭和20年)8月6日、広島市に、そして8月9日、長崎市に、原子爆弾が投下されてから、80年という時を迎えます。

所沢市では、さきの大戦で犠牲となられた全ての方々へ哀悼の意を表しますとともに、市民の皆様に改めて平和を祈念するきっかけとしていただくため、戦後80年という節目となる年に、市として初めて、所沢市平和祈念式を開催することといたしました。

所沢市役所には、1984年(昭和59年)に広島市から譲り受けた「被爆敷石」が設置されております。この敷石は今も、平和の尊さ、戦争の恐ろしさ、そして命の大切さを、静かに私たちに語りかけています。

唯一の戦争被爆国である日本に生きる私たちは、戦争、そして核兵器の恐ろしさと、それがもたらす惨禍を決して忘れることなく、次世代に語り継いでいく責任があります。

同じ悲劇は、二度と繰り返してはならない。その決意と、世界の恒久平和への思いを新たにするため、本日この場所で、黙祷する機会を設けさせていただきました。

所沢市では、平和の尊さを次世代に伝えるため、さまざまな平和推進事業に取り組んでおります。本日のこの式も、お集まりいただきました皆さまお一人おひとりにとって、「平和の大切さ」を見つめ直す時間となりますことを、心より願っております。

最後に、犠牲となられた全ての方々へ、改めて哀悼の意を表しますとともに、戦争も核兵器もない世界が一日も早く実現しますよう、市民の皆様とともに歩みを進めていくことをここに申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2025年(令和7年)8月6日  
所沢市長 小野塚 勝俊



## 広島市旧庁舎被爆敷石

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられていた御影石でできた敷石が、本市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。

なお、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。

次の言葉とともに…

ノー モア ヒロシマ  
No more Hiroshima



# 所沢市平和を語る会

## (語り部派遣事業)



## 事業概要

小・中学校の児童・生徒を対象に、戦争体験者・被爆体験者より、自身の戦争・被爆体験を語っていただく講演会を実施しております。

令和7年度は戦後80周年という節目の年であったことから、より多くの方に講演を聞いていただけるよう、7月24日(木)に新所沢まちづくりセンターにおいて「被爆80周年 所沢市平和を語る会」を開催しました。

## 令和7年度の実績

|   | 日程  |     | 場所           | 対象者          | 語り部                             |
|---|-----|-----|--------------|--------------|---------------------------------|
| ① | 6月  | 7日  | 並木小学校        | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ② | 6月  | 19日 | 宮前小学校        | 4年生          | 杉本 孝一郎さん                        |
| ③ | 6月  | 20日 | 清進小学校        | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |
| ④ | 7月  | 14日 | 明峰小学校        | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |
| ⑤ | 7月  | 24日 | 新所沢まちづくりセンター | 市民<br>新規採用職員 | 山中 茉莉さん<br>杉本 孝一郎さん<br>中島 寿々江さん |
| ⑥ | 9月  | 3日  | 若狭小学校        | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |
| ⑦ | 10月 | 24日 | 所沢小学校        | 6年生          | 杉本 孝一郎さん                        |
| ⑧ | 12月 | 4日  | 北野小学校        | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |
| ⑨ | 12月 | 5日  | 北秋津小学校       | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ⑩ | 12月 | 18日 | 北中小学校        | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ⑪ | 1月  | 13日 | 伸栄小学校        | 6年生          | 杉本 孝一郎さん                        |
| ⑫ | 1月  | 29日 | 上新井小学校       | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ⑬ | 1月  | 29日 | 和田小学校        | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |
| ⑭ | 2月  | 3日  | 小手指小学校       | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ⑮ | 2月  | 10日 | 北小学校         | 6年生          | 中島 寿々江さん                        |
| ⑯ | 3月  | 3日  | 三ヶ島小学校       | 6年生          | 山中 茉莉さん                         |

合計 16回開催 参加者数 1,681人

## 語り部の紹介

なかじま すずえ

**中島 寿々江 さん**(狭山市在住)

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家(大手町)に祖母、叔母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家(3kmほど離れた大洲町)に移っていたため大事には至りませんでした。が、祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

中島さんからのメッセージ



今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

杉本さんからのメッセージ

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから…。

すぎもと こういちろう

**杉本 孝一郎 さん**(所沢市在住)

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。



山中さんからのメッセージ

やまなか まり

**山中 茉莉 さん**(所沢市在住)

広島で2歳の時に被爆しました。自宅は爆心地から1.4km程の場所にあり、縁側で母が洗濯するのを見ていた瞬間に原爆が落ちました。被爆者であることをずっと隠してきましたが、母の死後に「逃げてはいけない」と、経験を語る活動を開始しました。

被爆者への偏見など、差別問題にも通じる視点で、戦争被害や核兵器の恐ろしさを語ります。



広島に原爆が投下された時、私は中心地から1.4kmの母の実家で被爆しました。全滅地帯となった炎の海を逃げ回り、黒い雨にも濡れ、家も財産も全てを失い、焼け跡で野宿をして過ごしました。

私はこの時2歳でしたから、当時の記憶はありませんが、物心ついた頃から、一緒に逃げ回った母、伯母、祖母などから、あの日の惨禍を聞いて育ちました。それに終戦1~2年後の町のいたるところに焼け焦げた電柱や崩れかけた家などの焦土の名残があり、その景色は子供心にハッキリと覚えています。その景色に母たちの話す原爆投下の惨状を重ね合わせて、私はあの朝の悲劇を理解し記憶にいったように思います。

それにつけても、親たちの「生」への覚悟です。幼かった子や孫に、できることなら隠しておきたかった残酷な現実を、ちゃんと向き合って継承してくれたという事実です。私は今、彼女たちの紡いだ命の記憶を、私自身の祈りに変えて、継承していきたいと思っています。明日を生きる若い人達に、平和の尊さを知ってほしいから、その為に戦争の愚かさ、核兵器の恐ろしさを語っておきたいと思っています。できれば、戦争も核兵器も、過去の話でなく、今、目の前にある危機として捉えて頂けたらと願っています。

若い皆様のことを、自分の子供や孫のように大切に想って継承してまいると思っています。



# 所沢市平和祈念資料展



市役所及びまちづくりセンターにおいて、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを啓発します。

令和7年度は戦後80周年という節目の年であったことから、より広く啓発を行うため、市内4か所のまちづくりセンターにおいて実施しました。

### 【開催期間および場所】

令和7年8月 4日～8月15日：市役所1階市民ホール

令和7年8月18日～8月29日：松井・富岡・柳瀬・三ヶ島の各まちづくりセンター

### 【展示内容】

#### ●所沢市役所市民ホール

- ◆広島・長崎原爆写真パネル
- ◆関連図書

#### ●松井・富岡・柳瀬・三ヶ島の各まちづくりセンター

- ◆広島・長崎原爆資料パネル



## ～平和への想いを折り鶴に乗せて～

令和元年度から、市役所での資料展開催に合わせ、来庁された市民の方に折り鶴を折ってもらえるコーナーを、市役所1階市民ホールに併設しています。

来庁者が平和への想いを馳せて折った折り鶴は、原爆被爆者への追悼の意及び恒久平和を祈念する千羽鶴となって、平和大使の手により、広島「原爆の子の像」に奉納されています。



折り鶴を奉納する様子

# 日本原水爆被害者団体協議会

## 代表委員 田中熙巳氏 講演会



所沢市制施行75周年及び戦後80年の節目の年の記念イベントとして、未来を担う若い世代をはじめとする、より多くの方に平和の大切さを認識していただくことができるよう、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の代表委員である田中熙巳氏による講演会を開催しました。

### 【講師】

たなか てるみ

田中 熙巳 氏



昭和7年、中国東北部（旧満洲）に生まれ、その後長崎市へ移住。昭和20年8月9日に長崎市の自宅で被爆し、親族5人を亡くされました。東北大学助手、助教授、その後十文字学園女子短期大学教授として研究・教育に取り組む傍ら、長年にわたり日本被団協の事務局長として活動されました。

令和6年12月10日、ノルウェー・オスロで行われた日本被団協のノーベル平和賞受賞式で、代表委員として世界に向けて核兵器の廃絶などを訴える演説を行いました。

### 【開催日時】

令和8年3月15日（日）午後2時から午後3時30分

### 【会場】

所沢まちづくりセンター ホール・学習室6号（サテライト会場）  
（所沢市元町27-5）

### 【内容】

市長、教育長 挨拶

所沢市議会議長 挨拶

埼玉県立芸術総合高等学校 合唱部 合唱「空の文字」「信じる」

日本被団協 代表委員 田中 熙巳 氏 講演会

### 【参加者】

304人

応募者多数につき、抽選を行いました。また、より多くの方に講演を聞いていただけるよう、同センターの学習室6号をサテライト会場として利用しました。



# 講演会の様子



# 所沢市平和推進事業のあゆみ

| 年   | 月   | 日   | 内容   |
|-----|-----|-----|--|
| 昭和  |     |     |  |
| 59年 | 2月  |     | 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。                          |
|     | 10月 |     | 市長ら一行が広島市を表敬訪問   |
| 60年 | 8月  | 6日  | 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。(※)                                  |
|     | 11月 | 28日 | 所沢市広島原爆資料展を開催する。(中央公民館講堂)                                    |
|     | 11月 | 30日 | 市制施行35周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。                                |
| 61年 | 8月  | 6日  | 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。                                   |
| 62年 | 1月  |     | 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。                                     |
|     | 8月  | 6日  | 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。                              |
| 63年 | 8月  | 6日  | 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                                     |
| 平成  |     |     |  |
| 元年  | 8月  | 6日  | 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                                     |
|     | 8月  | 9日  | 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。                                     |
| 2年  | 7月  | 1日  | 所沢市平和都市宣言制定(告示)  |
|     | 8月  | 6日  | 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。                                     |
|     | 8月  | 9日  | 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。                                    |
| 3年  | 8月  | 6日  | 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。                                   |
|     | 10月 | 26日 | 第12回所沢市民フェスティバルに出展する。  |
| 9年  | 11月 | 13日 | 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。(市庁舎)                        |
| 17年 | 8月  | 25日 | 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。           |
| 18年 | 8月  | 8日  | 平和を語る会(語り部派遣事業)を開始する。  |
| 19年 |     |     | 広島平和記念式典に参加する市民代表「所沢市平和大使(生徒・学生)」の公募開始。                      |
| 20年 | 2月  | 28日 | 平和市長会議に加盟する。   |
| 21年 | 8月  | 6日  | 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。                                  |
| 22年 | 8月  | 9日  | 市長が長崎平和祈念式典に参列する。  |
| 27年 | 8月  | 15日 | 「戦後70年所沢市平和を語る会」開催   |
|     | 10月 | 7日  | 平和を語る会(語り部派遣事業)の参加者が1万人を超える。                                 |
| 30年 | 3月  |     | 語り部の方に感謝状を贈呈   |
| 令和  |     |     |  |
| 元年  | 8月  |     | 平和祈念資料展に併せ、「～平和の想いを折り鶴に乗せて～」を開始。                             |
| 7年  | 1月  | 17日 | 平和を語る会(語り部派遣事業)の参加者が2万人を超える。                                 |
|     | 7月  | 24日 | 「被爆80周年 所沢市平和を語る会」開催   |
|     | 8月  | 6日  | 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。                                  |
| 8年  | 3月  | 15日 | 戦後80年 所沢市制施行75周年記念イベント<br>日本原水爆被害者団体協議会 代表委員 田中 熙巳 氏 講演会を開催。 |

※ 広島平和記念式典へは、昭和60年以降、毎年参列している(令和2、3年はコロナにより中止)  
平成19年より対象を学生とし、所沢市平和大使として募集を開始した。

memo



## 令和7年度 所沢市平和推進事業のまとめ

令和8年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部企画総務課

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04-2998-9046

E-mail [a9046@city.tokorozawa.lg.jp](mailto:a9046@city.tokorozawa.lg.jp)